肥薩おれんじ鉄道

# 3月から観光列車

## 料理と車窓からの景観魅力

熊本県八代市と鹿児島県薩摩川内市を結ぶ第3セクターの肥薩おれんじ鉄道は、2013年3月24日に新しい観光列車「おれんじ食堂」の運行を開始する。運行区間は新八代・八代（熊本県）～川内（鹿児島県）間。新八代と八代間はJR九州の路線となる。車窓からの景観、車内で提供する料理が魅力だ。

3月から運行する観光列車「おれんじ食堂」の外観イメージ

列車デザインは、九州新幹線やJR九州の観光列車を手掛けた水戸岡鋭治氏。ロビーやカフェレストランをイメージしたデザインで、車内に設けられたキッチンから沿線の特産物を使用した料理や飲み物を提供する。不知火海（熊本）や東シナ海（鹿児島）などの海沿いの区間では減速走行を行い、海岸の景色を楽しめる。

2両編成で1号車はダイニングカー。昼食や夕食のメーンディッシュは沿線の提携レストランよりデリバリーされる。2号車はリビングカーで、テーブル席や半個室20席を設けた。

金・土・日曜、祝日に運行し、春休み、ゴールデンウイーク、夏休み、冬休みは毎日運行予定。貸切運行も年間38日程度を予定している。運行本数は1日3便。運行時間は1行程が新八代～川内で約3時間程度。

1号車（ダイニングカー）は原則、旅行商品として「運賃、座席指定料金、飲食付」の飲食パッケージプランのみの対応で、全区間（新八代・八代～川内）を乗車できる。パッケージ料金は大人1万2800円（小人8200円）。

2号車（リビングカー）は、乗車希望区間の所定の区間運賃に加えて座席指定料金で乗車できる。座席指定料金は大人1400円（小人700円）。また、チャーター料金は29万円から。飲食については打ち合せが必要。

## 「観光交流都市」を宣言

### 下関市 振興計画策定し推進

山口県下関市は12月21日、「観光交流都市下関市」宣言と同市が策定した観光振興の計画「下関市観光交流ビジョン2022」を発表した。

宣言とビジョンを発表する中尾市長

中尾友昭市長が、全ての下関市民が誇りを持てる観光交流都市下関市の構築を推進すると宣言。10年後の22年の観光客数を1千万人に、宿泊客数を100万人にする数値目標を掲げた。

同時に発表された下関市観光交流ビジョン2022は、市内の観光関係団体などの協力を得て、同市の観光の現状と課題を踏まえ、観光振興の方向性や基本戦略などを定めた。同ビジョンの策定にはアドバイザーとして、山口経済研究所と観光経済新聞社が協力した。

下関市は1996年に観光都市宣言を行っているほか、同年には国の国際会議観光都市の認定も受けている。観光都市宣言から16年が経過し社会情勢も変化していることから、観光交流都市宣言と下関市観光交流ビジョン2022を発表。観光都市としてランクアップを図り、観光客を増加させることで、地域経済を活発化させるとともに、観光産業のすそ野の広さを生かした定住人口の拡大も目指す。

中尾市長は「下関は全国に誇れる観光都市と考えている。宣言とともに、新ビジョンで目標数値と方向性を明確に打ち立てることができた。民間、関連団体と連携して施策を同一歩調で進めていきたい。オール下関で取り組んでいく」と述べた。

## 珍しい野菜や魚紹介

### 鳥取県 県産食材の試食会で

鳥取県は県産食材を使った新たな料理の提案と食材のPRを行うため、東京千代田区の和食居酒屋「稲田屋」で試食会を開催した。マスコミ関係者や料理研究家など約70人が集まり、県産の珍しい野菜や魚を使った料理を堪能した。

食材を説明する平井知事

平井伸治鳥取県知事は食材について丁寧に説明。「鳥取の食の豊かさを味わって体験してほしい」と語った。

県産だが日本でも馴染みのない中国野菜「ゆーまい菜」を使って梨のドレッシングで食べるサラダや、淡水魚の「アユカケ」の唐揚げや新鮮さを保つために夜の明けないうちに収穫するブロッコリーなど、ほぼ100％県産の食材のみで作った料理が振る舞われた。

料理研究家でフードライターの小山律子さんは「ゆーまい菜は少し苦みもあっておいしかった。今後も上手にPRしてほしい」とコメントを寄せた。出席者からは「アユカケの唐揚げがおいしかった」「ブロッコリーの味が濃い気がした」などの声が上がり評判を得た。

## 早春のキャンペ

### 3月末まで展開

千葉県

千葉県、ちばプロモーション協議会は1月1日、早春の観光キャンペーンを開始した。「元気あげます春の房総」をキャッチコピーに春季の魅力を売り込む。期間は3月31日まで。

メーンターゲットである東京圏の消費者に対しては、JR東日本の総武線の車両にキャンペーンをPRするラッピングを施して運行。ポスターの掲示やガイドブックの配布も行っている。

千葉県内の旅館・ホテルに宿泊した旅行者には、特典としてペア宿泊券や観光施設の入場券などを抽選でプレゼントする企画も実施している。

## 全国ほんもの体験フォーラム

## 徳島で3月16日から

体験型観光に取り組む全国の関係者が集まる滋賀で開かれた前回大会（2011年12月）

「第9回全国ほんもの体験フォーラムin徳島」が3月16～18日、徳島県徳島市などで開催される。「ほんもの体験交流で活力ある日本をつくる」をテーマにパネルディスカッションを行うほか、体験型観光の課題を議論する分科会などが開かれる。

主催は徳島県、美馬市、三好市、美波市、牟岐町、海陽町、つるぎ町、東みよし町など構成する実行委員会。共催は全国ほんもの体験ネットワーク。徳島では2011年3月に同フォーラムの開催が計画されていたが、東日本大震災の発生で中止になった経緯がある。今大会は時期を改めて再度準備された大会。

徳島市のアスティとくしまで開かれる全体フォーラムのパネルディスカッションは、体験教育企画代表の藤澤安良氏を進行役に、体験型観光を通じた地域振興や教育効果、体験型観光の成功の要件などについて意見交換する。パネラーはクラブツーリズム取締役テーマ旅行部長の霜田正明氏、JTB法人東京営業推進本部営業推進局スーパーバイザーの門倉俊一氏、まつうら党交流公社統括マネージャーの筒井雅浩氏、ニライカナイ代表・沖縄県体験型観光推進協議会副会長の加藤明宏氏、はあとふる美浜ネットワーク事務局長の丸木大助氏、南阿波よくばり体験推進協議会事務局長・牟岐町産業課主幹の西沢猛氏。

分科会は県内各地で5つの課題別に開く。それぞれのテーマは、「漁業と海の活用により漁村振興を」「自治体連携とコーディネート組織の運営」「体験型観光のマーケット拡大」「日本の教育を変えるほんもの体験」「農林業を資源とした地域振興の切り札」。

全体フォーラムや分科会のほか、徳島各地の体験プログラムを学ぶ研修ツアーも行う。主なツアーは、「南阿波の農家生活体験＆カツオのたたき作り体験」「うだつの町並み散策とフラワーアレンジメント体験＆吉野川リバーカヤック体験」「阿波おどり体験＆かずら細工体験」など。

問い合わせ先は、実行委員会事務局の徳島県観光政策課☎088（621）2340まで。

## 人材テーマにシンポ

### 近畿運輸局 1月に大阪で

「近畿観光地域づくりシンポジウム～観光地域づくりにおける中核人材の重要性について」が1月21日、大阪市中央区のホテルプリムローズ大阪で開催される。

基調講演では、旅館、陶泉御所坊主人の金井啓修氏が「観光地域づくりにおける中核人材の役割について」と題して講演。

地域事例の紹介もある。近江屋ツアーセンター所長の田渕正人氏が「中核人材の育成について」、地域環境計画研究所代表取締役の若狭健作氏が「工都尼崎を観光する」、ひがし北海道観光事業開発協議会事務局長の野竹鉄蔵氏が「広域からみた各地域における人材を生かした展開」についてそれぞれ発表する。

パネルディスカッションは金井、田渕、野竹、若狭の各氏に加え、近畿運輸局の森宏之・企画観光部長がパネラーとして参加。内田彩・大阪観光大学専任講師がコーディネーターを務める。

参加申し込みは、ファクス、メールで受け付ける。締め切りは1月15日まで。

問い合わせは、近畿運輸局企画観光部観光地域振興課☎06（6949）6411まで。

## 2月に修学旅行セミナー

### 和歌山県 東京で体験メニュー紹介

和歌山県は2月8日、首都圏向けの修学旅行セミナーを東京都千代田区のホテルメトロポリタンエドモントで開く。旅行会社の担当者、学校関係者の参加を募っている。

「ほんまもん体験」として提案している体験プログラムの魅力などを紹介する。

自然や文化、産業の魅力を体感でき、地元住民と交流できる体験プログラムについて受け入れ地域・団体がPRするほか、学校関係者が修学旅行の事例発表を行う。

体験のプログラムには、農業や漁業の産業体験、カヌーといった自然スポーツ体験など、多彩なメニューをそろえている。

和歌山県の修学旅行の県外からの受け入れ実績は、体験プログラムや民泊の充実により増加傾向にある。2005年度は6校だったが、10年度には37校、11年度には43校、12年度には39校に上っている。

セミナーの問い合わせは、和歌山県庁観光交流課☎073（441）2758まで。

観光庁

## PF支援事業で石巻圏に補助金

観光庁はこのほど、今年度の観光地域づくりプラットフォーム（PF）支援事業で、宮城県の石巻市、東松島市、女川町で構成する石巻圏周遊観光促進協議会に補助金を交付することを決めた。同協議会が取り組む東日本大震災からの観光復興に向けた事業計画づくりなどを支援する。

今年度のPF支援事業は、震災の被災地である岩手、宮城、福島の3県を対象に補助採択の要件を緩和している。観光圏整備法に基づき認定された観光圏でなくても、新規の認定を目指す協議会などが支援を受けることができる。

石巻圏周遊観光促進協議会は、観光圏整備計画、または着地型旅行商品の流通の窓口となるPFの事業計画などの策定にかかる事業の費用について支援を受けられる。補助金の上限は500万円に定められている。

## 体験型観光の現場〈324〉

地域観光

謹んで新春のお祝詞を申し上げます。

大河ドラマでは、平家が滅亡し、源氏の時代となった。大河ドラマの効果を生かせたか、それを未来へとつなげる財産としたのかが毎年問われる。

3年3月前、自民党が大敗し民主党政権に変わり、過日は民主党が大敗し再び自公政権になり、首相までも再登板となる。約700年前の平家物語からの引用である「驕る平家は久しからず」との教訓はいつの世までも生きている。その例にならぬことを願うものである。

12年は九州新幹線が全線開業して1年が経ち、経過は順調で、とりわけ体験型観光においても沿線地域の飛躍の年となった。

年末に高知自動車道が延長し、難所の七子峠を橋とトンネルで越え、四万十町にまで延長開業した。そのインターチェンジにほど近い道の駅には1日1万人以上が立ち寄り、飲食物産に大きな経済効果をもたらした。幹線の名神、東名、中央などとは比べるべくもないが、当地にとっては大きい数値である。半年前には当地、四万十町で自動車道延長効果を期待した観光振興シンポジウムにうかがった。町長を先頭に好機を逃すまいと、いろいろな立場の人が観光振興に取り組む姿勢が見て取れた。

## 観光振興に周到な準備を

地方空港が苦戦する中にあって、12年12月14日には山口県岩国市に岩国錦帯橋空港が開業し、羽田空港から全日空が4往復就航した。空港へは、政令指定都市の広島からJRで50分740円で岩国駅へ、その岩国駅からタクシーで5分880円で着く。合わせて約1時間で到着する。

開業した岩国錦帯橋空港（上左・歓迎看板、上右・就航機737―800機、下左・岩国錦帯橋空港看板、下右・チェックインカウンター）

世界遺産の原爆ドームは広島市内だが、もう一つの世界遺産、宮島厳島神社の最寄り駅宮島口からは空港までJRで22分であり、タクシーと合わせて約30分である。空港は岩国駅から2キロメートル以内と駅からの距離は大きな魅力である。

つまりは、〝第2広島空港〟の役割も担うことになる。地元、岩国市でも空港名の錦帯橋だけに頼ることなく、清流錦川や農山漁村の体験交流プログラムを売り出し、従来型の観光資源との相乗効果を狙わなければならない。

2014年度末の北陸新幹線の金沢までの開業も、阪和自動車道の周参見延長も大きな起爆剤になる。何もしなければ時はすぐ経ってしまう。早めのスタートはフライングでない。当該地域の既存の観光施設以外の体験交流型の観光システムの開発や宿泊施設のホスピタリティ・サービスの向上など周到な準備が望まれる。首長以下、行政と地域が一丸となって取り組むことによりのみ、成果が生まれることになる。誰か任せでも、誰だけでもうまくいかない。自らが動くことである。

（体験教育企画代表・藤澤安良）